

## 学校関係者評価報告書

学校法人 福田学園  
大阪工業技術専門学校  
自己点検・評価委員会  
学校関係者評価委員会

学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校(自己点検・評価委員会)が実施した令和3年度自己点検・評価表に基づき、下記日時に開催した『学校関係者評価委員会』に於いて以下の意見と評価がありました事を報告致します。今後は、当該評価委員から頂きました意見等を真摯に受け止め、より良い学校運営と教育に努めて参ります。

●開催日時:令和4年8月26日(金) 13:00 ~ 15:00

●場 所 :福田学園 1号館 (大会議室)

●学校関係者評価委員 出席者

【評価委員】	所 属	役職等
松山義広	奈良県立吉野高等学校	教 頭
延安浩二	株式会社金山工務店	取締役
河野正道	住友精密工業株式会社	総務人事部人事グループ アシスタントマネジャー
村野智子	卒業生(平成5年卒)	校友会長
【事務局】	所 属	役職等
伊東和幸	大阪工業技術専門学校	副 校 長
宗林 功	大阪工業技術専門学校	教務課長
吉田裕彦	大阪工業技術専門学校	企画開発局長
堀部達夫	大阪工業技術専門学校	ロボット・機械学科長
吉松秀典	大阪工業技術専門学校	広報担当課長
善才雅夫	大阪工業技術専門学校	進路支援室長
辻本 功	大阪工業技術専門学校	事務課長代理
宗田宜士	大阪工業技術専門学校	事務課主任

◆評価委員の意見と評価

A:十分に満足できる(3点) B:満足できる(2点) C:やや不十分である(1点) D:不十分である(0点)

項 目	評価委員の主な意見等	総合評価 (平均値)
【基準1】 教育理念・目的・ 育成人材像	貴校卒業生も弊社に多く在籍し、各部門で中核の人材として活躍いただいていることから、教育理念に基づいた人材育成の成果が表れているものと思われる。	3
	将来に向けた構想の中で「ICT教育(GIGAスクール構想対応)」に向けて、全面的な電子黒板の導入を計画的に準備されていることは、教育のICT化推進の礎となるとと思われる。	
	適宜、時代の変化に応じた内容に見直されており、十分に満足できる。また、少子化により学生数の確保が難しくなるが、しっかりとした中期計画を策定し安定した学生数の確保に取り組んでいただきたい。	
	このコロナ禍により様々なことが急激に変化してきているなか、常に状況に合わせて変えていく必要があると思われる。ICT化としてGIGAスクール構想の取り組みが積極的に推進され評価できる。	
【基準2】 学校運営	概ねセクショナリズムに陥りがちの組織運営も、横断的に物事を捉え問題点を提議し解決を図る部署が必要。企画開発局は貴校の今後の発展を担う重要な部署であり、尚一層の活躍に期待する。	2.8
	デジタル技術を活用し教育事業や組織のあり方を改革し、教職員の働き方やその生活をより良い方向に導く手立てを計画され、DX化のことを良く考えておられる。	
	現状のシステムに課題があるようなので、さらなる業務効率化を図るべく、必要に応じシステムの改修を検討いただきたい。	
	情報システム化が進められており評価できる。卒業後の情報もシステムが構築がされているようであるが、	

	<p>校友会との有効な連携が出来るように活かして頂きたい。</p>	
【基準3】 教育活動	<p>貴校が掲げる教育目標・育成人材像に沿った教育活動を実践されていると感じた。特に教職員の皆さんが一体となって学生に接しているとお伺いして、皆さんの教育・育成に対する意識の高さに感心した。</p> <p>withコロナ／afterコロナ時代におけるICT教育の体制を整えておられ、また企画開発局を設置し、教員の開発プログラムを策定し、その運用を進められていることは見習う所がある。</p> <p>コロナ禍において、教員の専門性を向上させるための外部研修へ参加することが困難な状況であったようだが、学内研修会を充実させるなど外部研修に変わる施策を検討いただきたい。</p> <p>コロナ禍の中でICTを有効に活用し、適切に対応されていると思われる。また、業界のニーズはもとより、学生の授業評価アンケートも行われ、常に状況に応じた対応をされ評価できる。</p>	2.5
【基準4】 教育成果	<p>資格合格率の高さに併せ、卒業生の社会での高評価は、資格を取得する意義や社会人としてのあり方までしっかり指導できているからだと思われる。</p> <p>コロナ禍に於いて、令和3年度の退学率が増加したことにより、別にHR時間を確保するなどの取り組みを速やかに進められたこと。また、学生の意志を尊重しながらの就職指導は評価できる。</p> <p>就職内定率が目標を未達成とのことなので、目標を達成いただくよう引き続き尽力いただきたい。</p> <p>除中退率が一昨年と比較し増加しているようである。コロナ禍により会話する時間が少なくなっていると思われるが可能な限り対面で接する機会を増やす取り組みを検討いただきたい。</p> <p>就職に関して、コロナ禍もあって学生のニーズが読み取ることが難しいなか、高い目標を持って取り組んでいると思われる。また、資格取得は推進すべきである。専門知識を学ぶ意味、社会状況を理解して貰い成果に繋げていただきたい。</p>	2.5
【基準5】 学生支援	<p>貴校が学生の就職に関してノウハウを指導するに止まらず、学生一人一人に対して本人の個性や適性を十分把握し就職支援を行っていることが、採用面接に関わっていると伝わってくる。学生に対する寄り添い方が他校と違い濃密なものと感じる。</p> <p>高等教育の修学支援新制度(授業等の減免や給付型奨学金)は、経済的に厳しいご家庭にとっては進学への動機付けになることから、文科省の認定要件等に叶う学校運営に努めて頂きたい。</p> <p>ドリームサポートプランは、経済的困難者にとって有意義な制度であり、就学支援の礎となっているようなので是非制度を継続いただきたい。</p> <p>ドリームサポートプランと修学支援新制度の双方が利用出来る事は大いに評価できる。是非とも、大学等修学支援法の認定を継続して頂きたい。学校の大きなアピールになると思われる。</p>	3
【基準6】 教育環境	<p>貴校はICT技術に関しての投資を積極的に行い、学生が学びやすく且つ将来に役立つよう環境を整えておられるが、ICT技術の発展はまだ止まるころではないので、今後継続的にその技術の吸収に注力して行く必要があると思われる。</p> <p>就職活動に於いて、1年生後期から面談を行うことで意識付けを図られている。また、新規の企業・業界の開拓を強化されようとしていることは評価できる。</p> <p>施設・設備の更新は長期的な展望を踏まえて計画実施いただきたい。</p> <p>コロナ禍において、研修先の新規開拓は難しい状況ではあるが、校友会と連携し卒業生のコネクションを利用するなど連携促進を強化いただきたい。</p> <p>先を見通し、早くからICT化に取り組んでおられ評価できる。また、企業研修や見学等、卒業生の繋がりをさらに有効に活かして頂きたい。</p>	3
【基準7】 学生の募集と受け入れ	<p>貴校の擁する学科の卒業生は、社会からのニーズが高いものであり、貴校の強みをより一層募集活動に反映させ、一人でも多く優秀な人材を育てていただきたい。</p> <p>入試選考に於いて、志望動機に重点を置いて実施していることは、高校の立場からしても望ましい。</p> <p>世間の動向などを踏まえ適切な募集定員に設定いただきたい。</p> <p>また、入学時のミスマッチが発生しないように志望者の問い合わせなどにしっかり対応いただきたい。</p>	2.8

	<p>面接を行い、本人の意思確認を行っている事は貴校の特色として大変良いと思われる。また、学生募集についても適切に行われており評価できる。</p>	
【基準8】 財務	<p>財務状況は強固であり、問題ないと思われる。しかしながら、将来の展望を見据えたうえで人への投資、設備・環境整備への投資を積極的に行い、更に発展を目指して頂きたい。</p> <p>3ヶ月に1度の会計監査を実施し、適切な財務管理を行っていることは評価できる。</p> <p>長期の負債もないようなので、引き続き安定的な財務運営を行っていただきたい。</p> <p>長期負債がない点、予算に差異が発生した時の対応、適切な時期の監査がされており評価できる。</p>	3
【基準9】 法令等の遵守	<p>社会から求められる法令順守の精神は、より高いものになりつつある。せっかく整備してもそれを遵守する気持ちを教職員・学生皆に浸透させることが非常に難しいことと思われる。引続き啓蒙活動に注力していただきたい。</p> <p>定期的・日常的に研修・ガイダンスを行い、法令・規則の遵守、個人情報保護の意識を高めていることは評価できる。</p> <p>点検中項目総括では、教職員や学生等に対する法令や専修学校設置基準等の遵守の啓発活動が十分ではないようなので引き続き検討いただきたい。</p> <p>法令遵守により適切に運営が行われていると評価できる。ただ学生への専修学校の設置基準の遵守に關しての啓発活動はなかなか難しいように思われる。</p>	2.3
【基準10】 社会貢献	<p>取巻く環境や、学生の置かれている状況により取組みにくい事柄ではあるが、社会貢献については学校や企業にとって積極的に取組むべき課題として重要視されているので、今後一層の取組強化が必要であると思われる。</p> <p>コロナ禍に於いても、実施可能な連携事業を策定し、効果的な活動を実施していることは評価できる。</p> <p>地域住民の方々と町づくりのプロジェクトに参画するなど、連携・交流が図られている。引き続き、更なる交流を深めていただきたい。</p> <p>行政、企業、地域施設等のコンペに参加したり、イベントに参加する等、積極的な活動を行っており、優秀な成績を収めている事はすばらしい。また、恵まれた立地条件を活かして教室を利用したの講習やオンライン講習など、生涯学習の場として活用して頂きたい。</p>	2.5
【基準11】 国際交流	<p>我が国の建設業界の人員不足は深刻なものとなっており、貴校で教育を受けた外国人留学生であれば活躍できる場所は多くあると思われる。外国人留学生の受入体制をより一層整え、人材を輩出していただきたい。</p> <p>日本の少子高齢化を鑑みた場合、現地から直接の日本語能力修得者(留学生)の受入検討は是非とも進めて頂きたい。</p> <p>グローバルな視点より日本国内の生徒が外国人留学生と接点を持つことは、非常に有益だと考える。</p> <p>様々な課題があると思うが、戦略を持って国際交流を行っていただきたい。</p> <p>毎年入学者がある事は評価できる。学科や学年を超えて本国の学生と交流を持てるようにして頂きたい。</p> <p>国際化が進む中、知見を広めることに有効であり、優秀な留学生が在籍しているなら尚更である。</p>	2.5

※尚、上記の意見と評価は、委員会当日(8/26)に出席されました評価委員の皆様方から、後日、別途改めて頂戴しました評価表を集約し、纏めて記載しております。